

## 東芝パッケージエアコン<天井埋込ビルトイン形> 据付説明書

<室内ユニット>      <天井パネル>

AID-P401BH／RBC-UD451P(W)

AID-P451BH／RBC-UD451P(W)

AID-P501BH／RBC-UD451P(W)

AID-P561BH／RBC-UD451P(W)

AID-P631BH／RBC-UD451P(W)

AID-P711BH／RBC-UD711P(W)

AID-P801BH／RBC-UD711P(W)

AID-P1121BH／RBC-UD1251P(W)

AID-P1401BH／RBC-UD1251P(W)

<室内ユニット>      <天井パネル>

AID-AP401BH／RBC-UD451P(W)

AID-AP451BH／RBC-UD451P(W)

AID-AP501BH／RBC-UD451P(W)

AID-AP561BH／RBC-UD451P(W)

AID-AP631BH／RBC-UD451P(W)

AID-AP711BH／RBC-UD711P(W)

AID-AP801BH／RBC-UD711P(W)

AID-AP1121BH／RBC-UD1251P(W)

AID-AP1401BH／RBC-UD1251P(W)

組み合わせ室外機はカタログをご覧ください。

《別売品》  
リモコン  
RBC-AMT21    :メインリモコン





お知らせ

- ・このエアコンはオゾン層を破壊しないHFC系新冷媒（R410A）を使用しています。
- ・本説明書は室内ユニット側の据付工事方法を記載してあります。
- ・室外機の据え付けは、室外機に付属している据付説明書に従ってください。
- ・この室内ユニットは、新冷媒（R410A）用です。室外機は必ず新冷媒（R410A）用と組み合わせてください。
- ・天井パネルとリモコンは別売です。

### もくじ

安全上のご注意 .....	2	3.冷媒配管 .....	10
新冷媒エアコンの据え付けについて .....	3	4.電気配線 .....	12
据付場所の選定 .....	4	5.応用制御 .....	15
補助電気ヒーターの組み込みについて .....	5	6.試運転 .....	21
1.室内ユニットの据え付け .....	6	7.故障診断 .....	22
2.ドレン配管 .....	9	8.室内ユニット設定確認 .....	24

### 付属部品

部 品 名	個数	形 状	用 途	部 品 名	個数	形 状	用 途
取 扱 説 明 書	1	—	(お客様に必ず渡してください)	塩ビソケット	1		ドレン配管接続用
保 証 書	1	—	(お客様に必ず渡してください)	ねじシール材	1		ドレン配管接続用
据 付 説 明 書	1	本 紙	(お客様に必ず渡してください)	コネクタ組立	1		高静圧タップ切替用
断 熱 パイ プ	2		配管接続部断熱用				

### ◇お客様への引き渡し

- 「保証書」、「取扱説明書」とこの「据付説明書」を必ずお客様に渡してください。
- 「保証書」には必ず所定の事項（★印箇所）をご記入のうえ、お客様にお渡しください。
- 「取扱説明書」の内容を十分ご説明のうえ、引き渡しをお願いします。

# 安全上のご注意

## ■表示の説明

- 据付工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ据え付けてください。
  - ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 表示と意味は次のようになっています。



**警告**

「誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があること」を示します。



**注意**

※1  
※2  
「誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性、物的損害のみが発生する可能性があること」を示します。

※1：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。

※2：物的損害とは、財産・資材の破損にかかわる拡大損害をさします。

## ■図記号の説明



禁止（してはいけないこと）を示します。  
具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。



強制（必ずすること）を示します。  
具体的な強制内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。

- 据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、お客様に取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- また、この据付説明書は取扱説明書とともにお客様で保管いただくように依頼してください。



**警告**

- 据え付け工事はR410A用に製造された専用のツール・配管を使用し、この据付説明書に従って確実にすること  
使用しているHFC系新冷媒（R410A）は、従来の冷媒(R22)に比べ圧力が約1.6倍高くなります。  
専用の配管部材を使用しなかったり、据え付けに不備があると破裂・けが、また水漏れや感電、火災の原因になります。
- 据え付けは、販売店または専門業者に依頼すること  
ご自分で据え付け工事をされると、水漏れや感電、火災の原因になります。
- 据え付け工事は、この据付説明書に従って確実にすること  
据え付けに不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。



- 小部屋へ据え付ける場合は万一冷媒が漏れても限界濃度を超えない対策が必要  
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据え付けてください。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となります。
- 据え付けは、重量に十分耐える所に確実にすること  
強度が不足している場合は、ユニットの落下により、けがの原因になります。
- 台風などの強風、地震に備え、所定の据え付け工事を行うこと  
据え付け工事に不備があると、転倒・落下などによる事故の原因になります。
- 据え付け工事中に冷媒ガスが漏れた場合は換気を行うこと  
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据え付け工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認すること  
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒータ、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因となります。
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用すること  
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定すること  
接続や固定が不完全な場合は、火災などの原因になります。
- アースを必ず接続すること  
アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。  
アースが不完全な場合は、感電の原因になります。



**注意**

- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締め付けること  
フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になることがあります。



# 新冷媒エアコンの据え付けについて

このエアコンはオゾン層を破壊しないHFC系新冷媒 (R410A) を採用しています。

- R410A冷媒は従来の冷媒(R22)に比べ圧力が約1.6倍高くなり、水分・酸化皮膜・油脂などの不純物の影響を受けやすくなります。また、新冷媒の採用に伴い冷凍機油も変更しており、据え付け工事のときに水分・ゴミ・従来の冷媒や冷凍機油などが新冷媒エアコンの冷凍サイクル内に混入しないよう注意が必要です。
- 冷媒や冷凍機油の混入を防ぐため、本体チャージ口や据え付けツールの接続部分のサイズを従来冷媒用と違っており、下記の新冷媒 (R410A) 用専用ツールが必要です。
- 接続配管はクリーンな新品の配管部材を使用し、水分・ゴミを混入させないように施工してください。また、既設配管は内部の不純物の問題があるため使用しないでください。

## 必要器材および取り扱い上の注意点

据え付け工事を行うために、下表に示す工具・器材を準備する必要があります。

これらの中で新規に準備する工具・器材は、必ず専用品としてください。

記号の説明 ◎：新規に準備 (R410A専用としてR22・R407Cと使い分けが必要) △：従来工具を流用可

使用する機器	用 途	工具・器材の使い分け
ゲージマニホールド	真空引き冷媒充填	◎新規に準備、R410A専用
チャージングホース	および運転チェック	◎新規に準備、R410A専用
チャージングシリンダー	冷媒充填	使用不可 (冷媒充填ハカリによること)
ガス漏れ検知器	ガス漏れチェック	◎新規に準備
真空ポンプ	真空乾燥	逆流防止アダプタを取り付ければ使用可
逆流防止付き真空ポンプ	真空乾燥	△R22 (現行品)
フレアツール	配管のフレア加工	△寸法の調整で使用可
ベンダー	配管の曲げ加工	△R22 (現行品)
冷媒回収機	冷媒の回収	◎R410A専用
トルクレンチ	フレアナットの締め付け	◎φ12.7, φ15.9用は専用
パイプカッタ	配管の切断	△R22 (現行品)
冷媒ポンペ	冷媒充填	◎R410A専用 識別：冷媒名記載
溶接機・窒素ボンベ	配管の溶接	△R22 (現行品)
冷媒充填ハカリ	冷媒充填	△R22 (現行品)

## 冷媒配管について

このエアコンの据え付けには、新冷媒(R410A)対応のフレア方式配管キットを使用してください。

### ■新冷媒 (R410A) 用配管キットを使用する場合

新冷媒エアコンの発売に伴い、エアコンの据え付けに使用する配管キットには、配管の梱包箱に冷媒種・対応冷媒名・配管肉厚が表示されています。このエアコンの据え付けには、必ず、

**冷媒種：2種、対応冷媒名：R410A**

と表示されている配管を使用してください。(適用冷媒種は、配管の断熱材被覆にも約1mごとに記号化して表示してあります。この表示が「②」のものを使用してください)

また、フレア加工、フレアナットも新冷媒 (R410A) 用のものが必要がありますが、この表示のある冷媒配管キットでフレアナットが付き、フレア加工してあるものは、そのまま使用できます。

### ■新冷媒 (R410A) 用配管キットを使用しない場合

#### 1. 従来の配管キットを使用する場合

- 適用冷媒種の表示のない従来の配管キットを使用する場合は、必ず、配管肉厚がφ6.4, φ9.5, φ12.7は0.8mm、φ15.9は1.0mmのものを使用してください。

従来の配管キットで、配管肉厚が上記以下の薄肉配管は、耐圧強度が不足しますので絶対に使用しないでください。

#### 2. 一般の銅管を使用する場合

- 銅管はJIS H 3300「銅および銅合金継目無管」のC1220タイプで、内部の付着油量40mg/10m以下、配管肉厚はφ6.4, φ9.5, φ12.7は0.8mm、φ15.9は1.0mmのものを使用してください。上記以外の薄肉配管は、絶対に使用しないでください。

#### 3. フレアナットおよびフレア加工

- フレアナット・フレア加工も従来冷媒用と異なります。フレアナットはエアコン本体付属のもの、またはR410A用を使用してください。
- フレア加工は『冷媒配管の接続』の部分をよく読み、加工してください。

# 据付場所の選定

## ⚠ 注意

可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わないこと

万一ガスが漏れてユニットの周囲に溜まると、発火の原因になることがあります。



室内ユニットは冷・温風がムラなく循環する場所を選んでください。

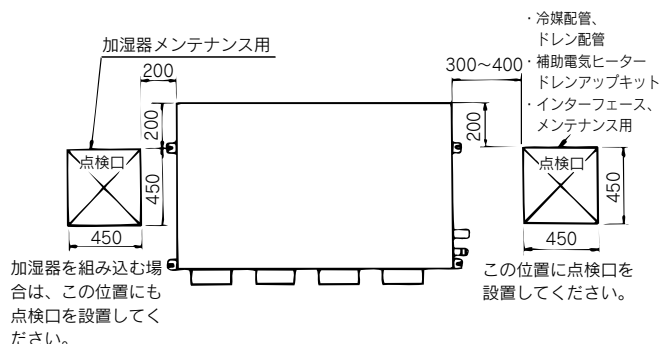
次のような場所はさけてください。

- 塩分（海岸地区）の多い場所
- 硫化ガス（温泉地区）の多い場所（銅管、ろう付け部が腐食する恐れがあります）
- 油を多量に使用する中華料理店などの調理場や、工場の機械設備の周辺（油が室内ユニットの熱交換器・電気ヒーターや樹脂部品等に付着して、能力の低下・霧吹きや霰飛びの発生、ヒーターの故障・樹脂部品の変形や破損の原因になります。）
- 吹き出しの気流を乱す換気口や照明器具などの障害物が近くにない場所（気流の乱れにより、能力低下や機器の停止の恐れがあります。）
- 特殊用途（食品・動植物・精密機器・美術品の保存など）では使用しないこと。（保存物の品質等に損害の恐れがあります。）

- 高周波の発生する機器（インバータ機器、自家発電機、医療機器、通信機器）がある場所（エアコンの誤動作や制御の異常やそれら機器へのノイズによる弊害が生じる恐れがあります。）
  - 据え付けた下に、濡れては困るものがある場所（湿度80%以上のときやドレン口が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じる恐れがあります。）
  - ワイヤレスタイプの場合、インバータタイプの蛍光灯がある部屋、また直射日光があたる場所（ワイヤレスリモコンの信号を受け付けけないことがあります）
  - 有機溶剤を使用している場所
  - ドアまたは窓の近くで高湿度の外気と接する恐れのある場所（結露する恐れがあります）
  - 特殊なスプレーを頻繁に使用する場所
- 建物の金属部とエアコン金属部との電気絶縁は電気設備技術基準（182条）に従ってください。

## 据付スペース

据え付け・サービスに必要なスペースを確保してください。



## お願い

1. ユニットを据え付ける前に、別売付属品（補助電気ヒーター、加湿器、ドレンアップキットなど）をユニットに取り付けてください。また吸込パネル以外にユニット側面に点検口を設置してください。
2. 補助電気ヒーターを取り付ける場合は点検口を600x600にしてください。

## 据付場所の選定

### 高湿度雰囲気

本体は「JIS 露付条件」で試験を行い、不具合のないことを確認してありますが、下記のような、高湿度の条件で運転を続けると水滴が滴下する恐れがあります。特に天井内が梅雨時期を含め高湿度雰囲気（露点温度23℃以上）になる場合があります。

- 1) 瓦ぶき屋根の天井内に設置
- 2) スレートぶきの天井内に設置
- 3) 天井内を外気取り入れ通路に使用しているところ
- 4) 調理場

このような場所へ設置する場合高湿度雰囲気に触れる本体の全箇所を断熱材（グラスウールなど）を追加貼付してください。

J I S B 8616露付試験条件	
室内側	27℃乾球温度
	24℃湿球温度
風 量	弱風量
運転時間	4時間

# 補助電気ヒーター(別売品)の組み込みについて

正しく安全にご使用いただくために、下記注意事項を守って取り付けてください。万一、取り付け施工あるいは取り扱い不備、不徹底がありますと機内の過熱や火災の恐れもありますので十分注意してください。

## ■補助電気ヒーター（別売品）を組み込む室内ユニットの据付場所

次のような場所へ据え付ける場合には、エアコンの能力低下・霧や水滴の吹き出し現象・樹脂部品の変形・破損および補助ヒーターの過熱・火災などの恐れがありますので、据え付けしないでください。

- 工場などで切削油や機械油等の立ち込める場所。
- 油類を多量に使用される中華料理店の厨房など。

## ■補助電気ヒーター（別売品）の取り付けに関する基準（法的規制）

補助電気ヒーターは、「エアコンディショナの電熱装置安全基準」(JRA-4001：社団法人 日本冷凍空調工業会標準規格)に適合する構造・性能のものでありますが、都道府県によっては消防署長への届出が必要な場合がありますので、室内ユニットの据え付け前に所轄の消防署にご相談ください。

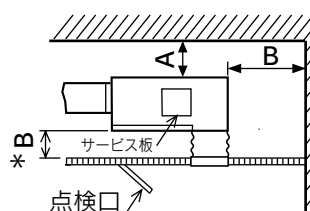
## 天井埋込形ビルトインタイプの補助電気ヒーター（別売品）取り付け上の注意事項

### ●東京都の場合（東京消防庁の見解）

東京都火災予防条例「火を使用する設備などの技術基準」の第3、温風暖房機の4項（ウ）の設置要領が適用されます。

したがって、下図のように建築物から距離を保つ必要があります。また、電気ヒーターを有効に点検できる位置に1辺60cm以上の点検口を設ける必要があります。

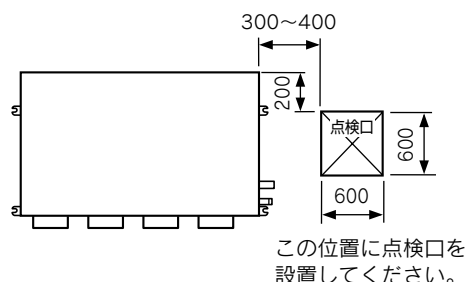
#### <構造物との距離>



注：\*は最低ドレン勾配1/100以上を確保してください。

	壁・柱等の材質	
	可燃材	不燃材
A	1000mm以上	100mm以上
B	600mm以上	50mm以上

注：“B”は周囲寸法を示します。



この位置に点検口を設置してください。

(注) 上記設置要領が満足できない場合は、事前に所轄の消防署へご相談ください。

# 1 室内ユニットの据え付け

## ⚠ 警告

据え付けは、重量に十分耐える所に確実に  
行うこと

強度が不足している場合は、ユニットの落下  
により、けがの原因になります。



台風などの強風、地震に備え、所定の据え付け  
工事を行うこと

据え付け工事に不備があると、転倒・落下など  
による事故の原因になります。



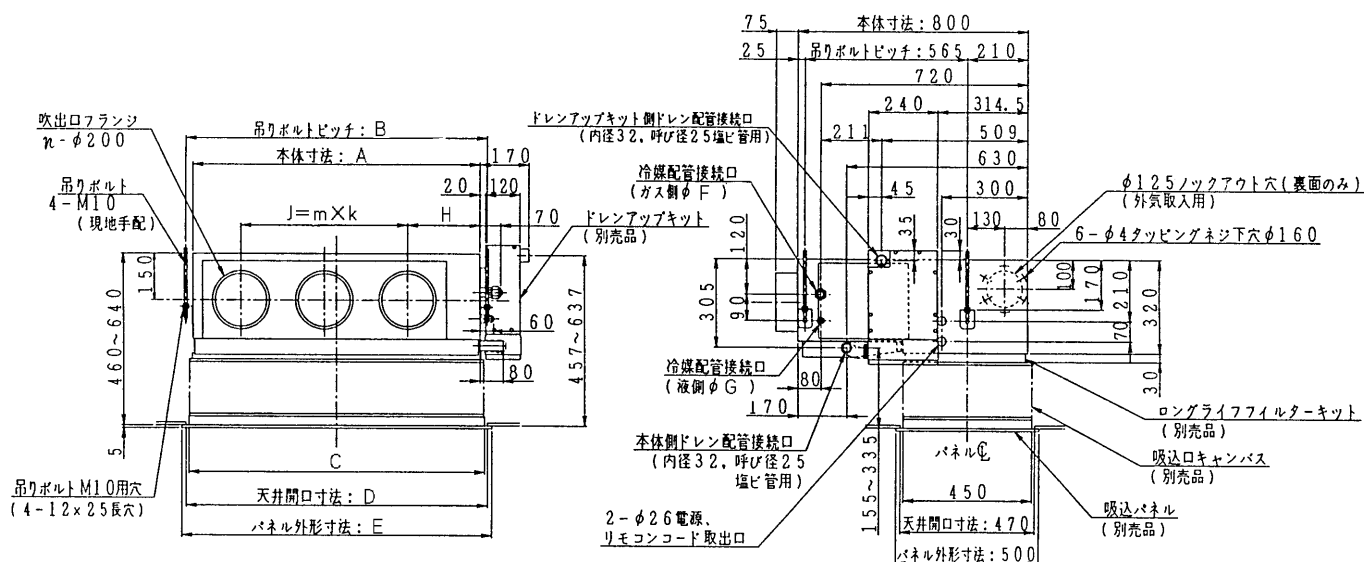
## お願い

室内ユニットの損傷防止及びケガの為、次のことは必ず守ってください。

- 梱包された室内ユニットの上に乗ったり、重量物を置いたりしないでください。
- 室内ユニットの搬入は、なるべく梱包したまま搬入してください。やむをえず開梱して搬入する場合は、当て布等で保護し本体に傷をつけないようにしてください。
- 運搬は2人以上で行い、PPバンドなど所定位置以外での運搬はしないでください。

## ●外形図

本図は標準システム（下面吸込）の場合を示します。



機種名 AID	A	B	C	D	E	F	G	H	J	K	m	n
P40形、P45形、P50形 P56形、P63形	700	750	730	750	780	12.7	6.4	252	280	280	1	2
P71形、P80形	1000	1050	1030	1050	1080	15.9	9.5		580	290	2	3
P112形、P140形	1350	1400	1380	1400	1430	19.0			930	310	3	4

吸込口の数減らして使用することはやめてください。  
(故障の原因となります。)

室内ユニットを吊り下げた後の、天井内での配管・配線接続作業を考慮しながら据付場所を選定し、配管の引き出し方向を決定します。

- 天井が既設の場合は、本体を吊り下げる前に配管・配線を接続する位置まで、冷媒配管・ドレン配管・室内接続配線・リモコンコードを引いておいてください。

## 天井開口と吊りボルトの取り付け

### 天井の処理

建築の構造により異なるので、詳しくは建築、内装業者と相談してください。

天井板の取り外し後の処理は、天井板の振動を防ぐための天井下地（骨組）の補強と既設天井の水平度を正しく保つことが重要です。

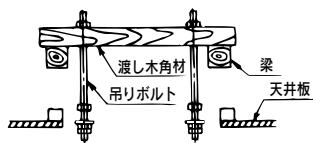
- ①天井下地を切断撤去してください。
- ②天井下地切断面を補強し、天井板の端固定用の天井下地を追加してください。

### 吊りボルトの取り付け

吊りボルト（4本、現地手配）はM10またはW3/8を使用します。ピッチはユニット外形図の寸法に従い、既設構造に合わせて次の方法で取り付けてください。

#### 木造の場合

梁の上に角材を渡して吊りボルトを設置します。



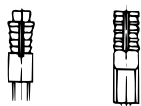
#### 新設のコンクリートスラブの場合

インサート金具、埋込ボルトなどで設置します。



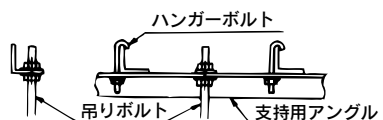
#### 既設のコンクリートスラブの場合

ホールインアンカー、ホールインプラグまたはホールインボルトを使用します。



#### 鉄骨構造の場合

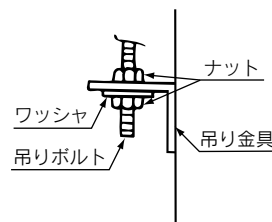
アングルをそのまま利用するか、新規に支持用アングルを設置します。



## 室内ユニットの吊り下げ

アッパーなどでユニットを持ち上げ吊り金具を吊りボルトに取り付けてください。

- 本体吊り金具の溝に吊りボルトのナットをかけて吊り下げます。
- 水準器などを使用して本体を水平に取付けてください。



## フィルターと吸込口キャンパスの取り付け

- 1.ロングライフフィルターまたは高性能フィルターを各々の据付説明書に従って取り付けます。
- 2.吸込口キャンバスを上記フィルターの下側に取り付けます。

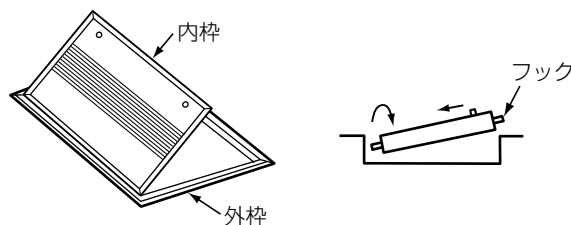
## 吸込パネル（別売品）の取り付け

### お願い

- 吸込パネルの取り付けは本体と天井との関係寸法が正しい状態にあることを確認してから行なってください。
- 吸込パネルと天井面は確実に密着させてください。隙間があると風もれが生じて露が付く原因になります。

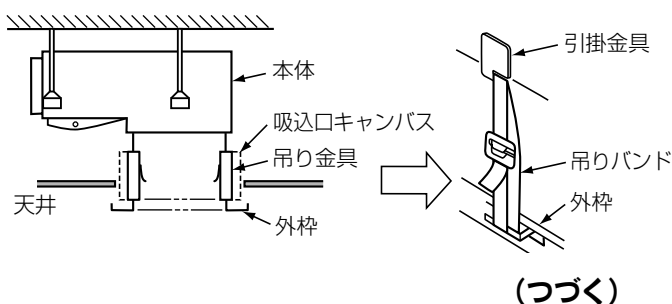
- 1.内枠をはずす。

- フックを穴からはずし内枠をはずしてください。



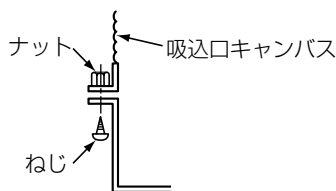
- 2.外枠を製品本体に吊り下げる。（コーナー4ヶ所）

- 吊り金具を本体の引っ掛け金具に引掛けます。

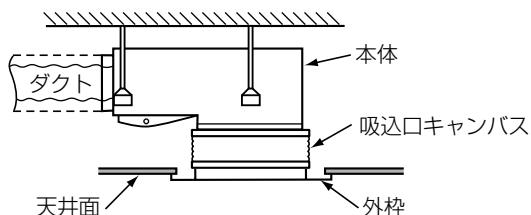


# 1 室内ユニットの据え付け (つづき)

3. 外枠を吸込口キャンバスにねじ止めします。

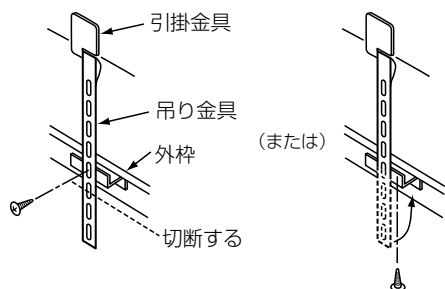


4. 外枠を吊り上げて、天井面に密着させます。



5. 吊り金具（付属品）で本体と外枠を固定します。（中央2カ所）

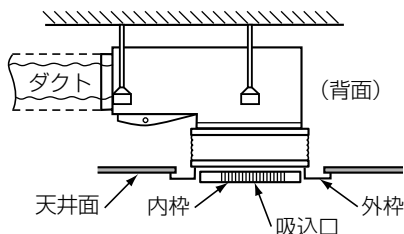
- 吊り金具の一方を本体の引掛け金具に引掛けます。
- 吊り金具のもう一方を外枠にねじで取り付けます。
- 吊り金具の余った部分をニッパーなどで切断します。



〈ご注意〉

吊り金具と吊りバンドで外枠が天井面に密着するまで吊り上げて固定してください。

6. 内枠を外枠に取り付けます。



## 天井パネル(別売品)の取り付け

天井パネルの取り付けはパネルに付属の取付説明書に従ってください。

## リモコン(別売品)の取り付け

ワイヤードリモコンの取り付け方法は、リモコンに付属の取付説明書に従ってください。

- リモコンコードは、冷媒配管またはドレン配管とともに取り出してください。また、リモコンコードは必ず冷媒配管およびドレン配管の上側を通すようにしてください。

### お願い

室内ユニット据え付け用の吊りボルトとナットは現地手配してください。

吊りボルト	M10またはW3/8	4本
ナット	M10またはW3/8	8本



# 2 ドレン配管

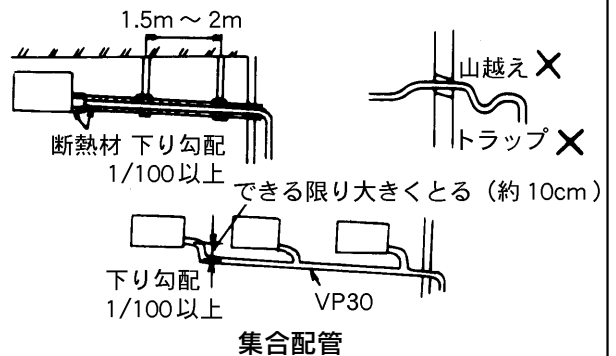
## ⚠ 注意

ドレン配管は、据付説明書に従って確実に排水するよう配管し、結露が生じないよう断熱すること  
配管工事に不備があると、屋内に水漏れし、家財などをぬらす原因になることがあります。



## お願い

- ドレン配管との接続部に力を加えないよう注意してください。
- ドレンは自然排水ですのでユニット外部の配管は下り勾配（1/100以上）とし、途中に山越えやトラップを作らないでください。異常音の原因になります。
- ドレン配管の横引きは20m以下にしてください。配管が長い場合は、1.5～2m間隔で支持金具を設け、波打ちを防止してください。
- 集合配管は右図のように施工してください。
- ドレン配管との接続部に力を加えないよう注意してください。
- 室内のドレン配管の断熱を確実に行ってください。
- 室内ユニットとの接続部も必ず断熱してください。断熱が不完全になると結露の原因になります。
- エア抜き管は付けしないでください。ドレン水が吹き出し水漏れの原因となります。



## 配管材料・断熱材

配管工事および断熱処理には下記材料を現地手配してください。

配管材料	硬質塩ビ管 VP25 (外径φ32mm)
断熱材	発泡ポリエチレンフォーム 厚さ10mm以上

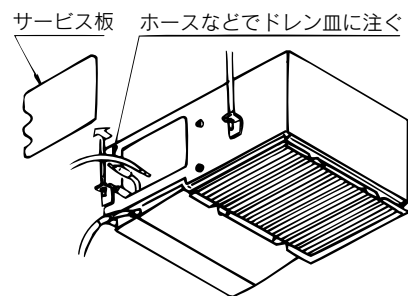
- 出荷時のドレン口はPT1の管用ねじです。塩ビ管を接続する場合は、付属のネジシール材と塩ビソケットを使用してください。

## ドレンアップキット(別売品)の取り付け

ドレン配管に下り勾配が確保できないときはドレンアップキット（別売品）によりドレンアップができます。  
別売品のドレンアップキットを据え付ける場合は、ドレンアップキットに付属の据付説明書をお読みください。

## 排水の確認

試運転時に排水が確実に行われること、配管接続部から水漏れのないことを確認してください。  
暖房期に据え付けの場合も必ず実施してください。  
注水口から注水して確認します。



# 3 冷媒配管

## ⚠ 警告

据え付け工事中に冷媒ガスが漏れた場合は換気を行うこと

漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。



据え付け工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認すること

冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒータ、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因となります。



## 配管許容長さおよび許容落差

室外機により異なります。詳細は室外機に付属の据付説明書に従ってください。

## 配管材料およびサイズ

配管材料		空調用リン脱酸銅継目無管(C1220T-O)	
機種名	AID-	P40形～P63形	P71形～P140形
配管サイズ	ガス側	φ12.7	φ15.9
	液側	φ6.4	φ9.5
	肉厚	φ6.4～φ12.7：0.8mm φ15.9：1.0mm	

## 冷媒配管の接続

### ●フレア加工

①パイプカッターで配管を切断します。

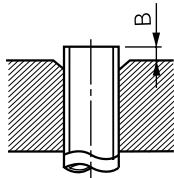
バリは必ず取ってください。

(ガス漏れの原因となります)

②フレアナットを配管に挿入後、フレア加工をします。

フレアナットは本体付属のもの、またはR410A用のものをご使用ください。

R410A用のフレア加工寸法は、従来のR22用とは異なります。R410A用に新規に製作されたフレアツールをおすすめしますが、従来のツールでも下表の通り銅管の出し代を調整すれば、使用できます。

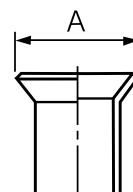


### ●フレア加工の銅管出し代：B（単位：mm）

銅管外径	リジッド（クラッチ式）の場合		インペリアル（ウイングナット）の場合
	R410A用ツール使用時	従来ツール使用時	
φ6.4 φ9.5	0～0.5	1.0～1.5	1.5～2.0
φ12.7 φ15.9			2.0～2.5

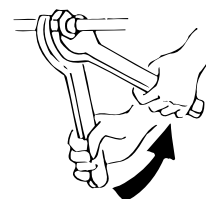
### ●フレア部加工寸法：A（単位：mm）

銅管外径	A $\begin{smallmatrix} +0 \\ -0.4 \end{smallmatrix}$
φ6.4	9.1
φ9.5	13.2
φ12.7	16.6
φ15.9	19.7



※従来のフレアツールを使ってR410A用のフレア加工をする場合は、R22のときより約0.5mm多めに  
出せば規定のフレア寸法に加工できます。出し代の寸法調整は銅管ゲージを使用すると便利です。

●室内ユニットの配管接続は必ずダブルスパナにて行ってください。



ダブルスパナ作業

●締付トルクは下表によってください。

接続配管外径（mm）	締付トルク（N・m）
φ6.4	14～18（1.4～1.8kgf・m）
φ9.5	33～42（3.3～4.2kgf・m）
φ12.7	50～62（5.0～6.2kgf・m）
φ15.9	63～77（6.3～7.7kgf・m）

### ●フレア配管接続部の締付トルク

R410AはR22に比べ、圧力が約1.6倍と高くなります。従って、室内・室外の各ユニットを接続するフレア配管接続部は、トルクレンチを使用して規定の締付トルクで確実に締め付けてください。接続に不備があるとガスリークだけでなく、冷凍サイクル故障の原因にもなります。

### お願い

トルクをかけ過ぎますと、据え付け条件によってはナットが割れる場合があります。

## エアパージ

- 真空ポンプを使用して、室外機のチャージポートから真空引きを行います。
- 室外機に封入の冷媒を使ったエアパージは絶対にしないでください。

### お願い

チャージホースなどのツールは、R410A専用に製作されたものを使用してください。

## 追加冷媒量

冷媒の追加は室外機の据付説明書に従い、冷媒「R410A」を追加してください。

必ずハカリを使用して定量封入し、追加量は規定量を必ず守ってください。

### お願い

- 冷媒の過剰封入や過少封入は、圧縮機の故障を引き起こす原因になります。  
必ず規定量を守ってください。
- 作業実施者は室外機のサービスパネルに貼り付けてある銘板に配管長さと追加冷媒量を必ず記入してください。圧縮機および冷凍サイクル故障時の原因究明に必要です。

## 室外機のパルブを全開にしてください

室外機のパルブを全開にします。弁棒の操作には、4mmの六角レンチが必要です。

## ガスリークチェック

リークディテクタや石けん水で配管接続部やバルブのキャップ部からガス漏れがないか確認します。

なお配管接続部のリークチェックには、必ず冷媒（R410A）を使用してください。

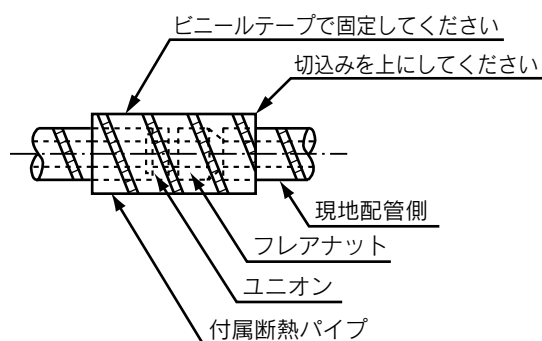
### お願い

リークディテクタは、HFC冷媒（R410A,R134aなど）専用に製作されたリークディテクタを使用してください。

## 断熱処理

配管の断熱は液側とガス側の両方を別々に行います。冷房時には液側・ガス側共に低温になるので結露防止のため十分な断熱処理をしてください。

- ガス側配管の断熱材は必ず耐熱温度120℃以上のものを使用してください。
- 室内ユニットの配管接続部は、付属の断熱材を用いて隙間なく確実に断熱処理してください。



# 4 電気配線

## ⚠ 警告

配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定すること  
接続や固定が不完全な場合は、火災などの原因になります。

### アースを必ず接続すること

アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。

アースが不完全な場合は、感電の原因になります。

電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用すること

電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。



## ⚠ 注意

### 漏電ブレーカーを取り付けること

漏電ブレーカーが取り付けられていないと感電の原因になることがあります。



## お願い

- 電源配線は所轄の電力会社の規定および電気設備基準に従って行ってください。
- 室外機の電源は各室外機の据付説明書に従って配線してください。
- 制御配線用端子板 (A, B や X, Y など) には200V電源を絶対に接続しないでください。(故障します。)
- 電気配線は配管の高温部に接触しないようにしてください。被覆が溶け事故の原因となる場合があります。
- 配線は端子板に接続した後、トラップを取り、ケーブルクランプで固定してください。
- 制御用配線系統と冷媒配管系統は同一系統に納めてください。
- 冷媒配管の真空引きが終るまで、室内ユニットに通電しないでください。
- 補助電気ヒータ (別売品) の電源は、必ず専用電源を設置してください。  
(補助電気ヒータの電源は各室内ユニット毎に設け、漏電遮断器・手元開閉器も各室内ユニット毎に設けてください。)

## 電源仕様

電源仕様は下表にしたがってください。容量が小さいと過熱・焼損等の発生原因となり危険です。

補助電気ヒーター (別売品) 取り付け機種種の補助電気ヒーター用電源は専用電源を設置してください。

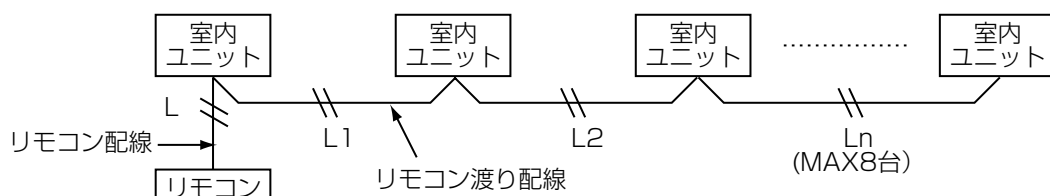
機種名 AID-	電源 (50/60Hz)	アース線	室内外 接続線	室内電源 渡り線 (ツイン・トリプルのみ)	別売補助電気ヒーター組み込みの場合		
					ヒーター電源		ヒーター 電源接続線 25m以下
					手元スイッチ(A)	ヒューズ(A)	
P40形	三相 200V 単相 200V	φ 1.6mm	φ 1.6mm × 3本	φ 1.6mm × 2本	15	15	φ 1.6mm
P45形～P63形	三相 200V 単相 200V						
P71形～P80形	三相 200V						
P112形～P140形	三相 200V	φ 2.0mm			30	20	φ 2.0mm

※記載の配線サイズは、最小サイズとなります。

リモコン配線、リモコン渡り配線	VCTF : 0.5mm <sup>2</sup> ～2.0mm <sup>2</sup> ×2本
-----------------	---

リモコン配線とリモコン渡り配線の総配線長=L+L1+L2+…Ln	ワイヤードタイプの場合	500mまで
	ワイヤレスタイプがある場合	400mまで
リモコン渡り配線の総配線長=L1+L2+…Ln		200mまで

リモコン線 (通信線) とAC100V/200Vの配線と直接接触させたり、同一電線管に収めることができません。ノイズ等により制御系統に異常が生じる恐れがあります。



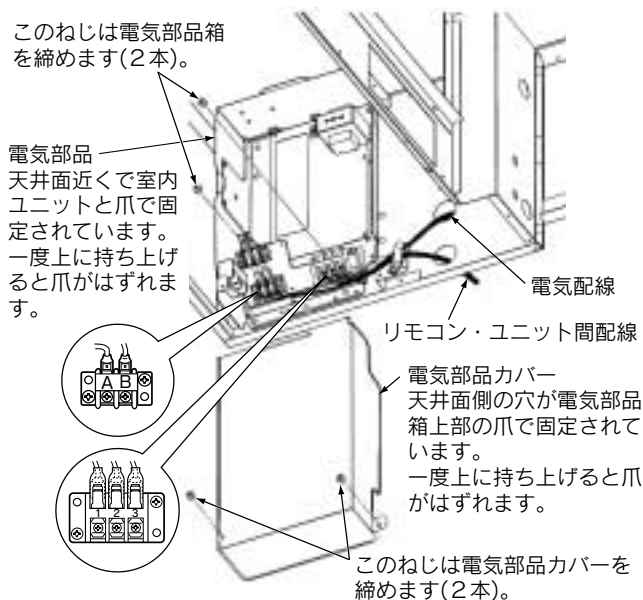
## 配線接続

配線は室内ユニットの配線接続口のブッシングを必ず通してください。

- 電気部品カバーを取りはずします。
- 電気部品箱をサービス等で吊り下げることがありますので配線には余裕を持たせます。(約250mm)
- 端子のねじはしっかりと締め、コードクランプで配線を固定してから、配線を絶対に挟まないようにカバーを元どおりに取り付けます。

## 室内ユニットと室外機の配線

このねじは電気部品箱を締めます(2本)。



### お願い

- 室内ユニットに組み込みの補助電気ヒーター(別売)用の電源は、専用電源としてください。
- 必ず電源仕様によってください。容量が小さいと、過熱・焼損などの発生原因となり危険です。
- 使用できる補助電気ヒーターの形名は、室外機の機種名と、組み合わせ室内ユニットごとに、おののお異なります。
- 室内外ユニット間の配線は、必ず端子番号を合わせて接続してください。接続を正しく行いませんと故障の原因となります。

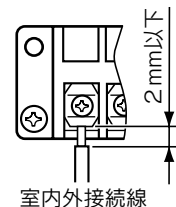
## 室内ユニット電気部品箱への配線

- 配線の室内ユニット電気部品収納部への接続部分は、必ずループをとってください。ループをとらないとサービス時に電気部品収納部を下へ引き出すことができません。

## 配線の取り付け位置

端子板に接続する配線は、右図の寸法を確保してください。

※補助電気ヒーター用の配線も同様に行ってください。



## 補助電気ヒーターの配線

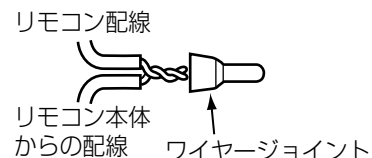
- 室内ユニットに組み込みの補助電気ヒーター用電源は、専用電源としてください。
- 必ず「補助電気ヒーター組み込みの場合」の電源仕様によってください。容量が小さいと、過熱・焼損などの発生原因となります。
- 使用できる補助電気ヒーターの形名は、室外機の機種名と、組み合わせ室内ユニットごとに、おののお異なります。
- 室内外ユニット間の配線は、必ず端子番号を合わせて接続してください。接続を正しく行いませんと故障の原因となります。

### ヒーター別売機種

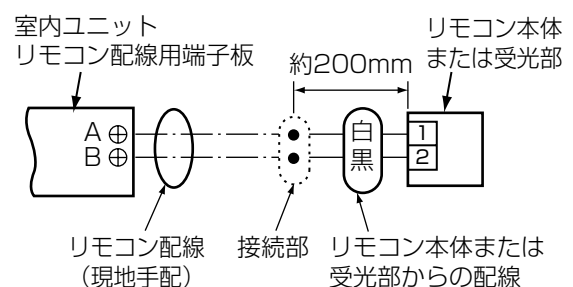
別売補助電気ヒーターを組み込む場合は、ヒーターの取付説明書にしたがってください。

## リモコンの配線

- 接続する電線の被覆を14mm剥きます。
- 接続するリモコン配線とリモコン本体(または受光部)の配線をより合わせて、ワイヤージョイントにて圧着接続します。(ワイヤージョイント(白:2個)は、メインリモコン(別売品)に付属されています。)



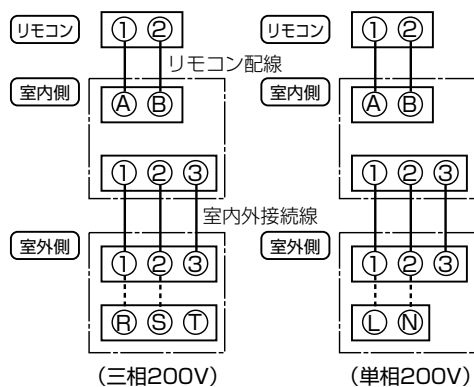
### ●配線図



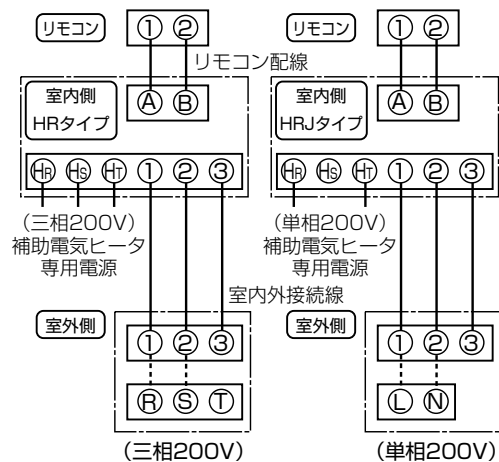
# 4 電気配線 (つづき)

## ●配線図

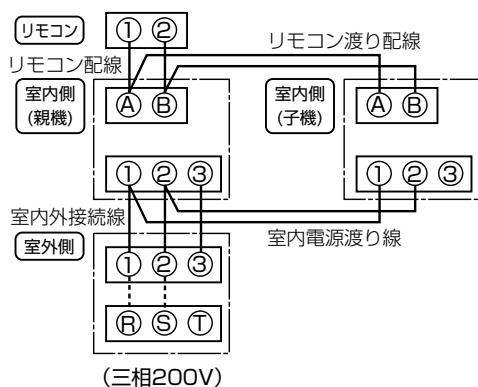
〈シングルシステム〉



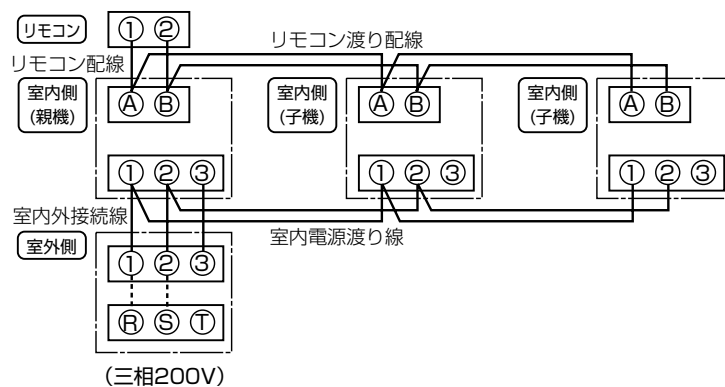
〈シングルシステム〉 補助電気ヒータ (別売品) 組み込み時



〈同時ツインシステム〉



〈同時トリプルシステム〉



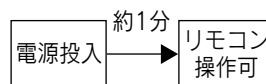
# 5 応用制御

## お願い

はじめてお使いの時は、電源が入ったあとリモコンが操作を受け付けるまで時間がかかりますが、故障ではありません。

＜据付後初回電源投入時＞リモコン操作ができるまで約5分かかります。

＜2回目以降電源投入時＞リモコン操作ができるまで約1分かかります。



出荷時は、全て【標準】に設定されていますので、必要に応じて室内ユニットの設定を変更してください。

設定変更は、メインリモコン（ワイヤードリモコン）の操作によって行います。

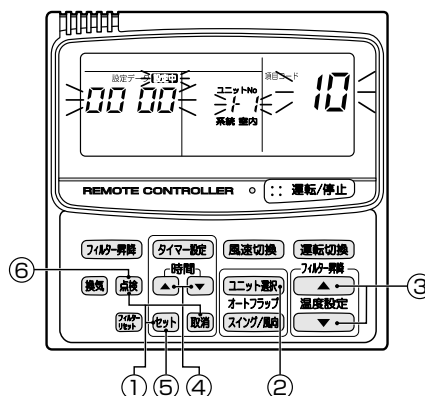
\*ワイヤレスリモコン・サブリモコン・リモコンレスシステム（集中管理リモコンのみの場合）での設定変更はできませんので、メインリモコンを別途用意して取り付けください。

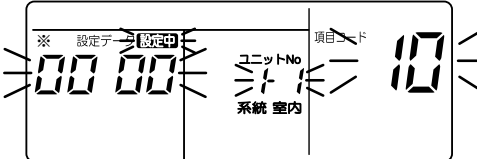
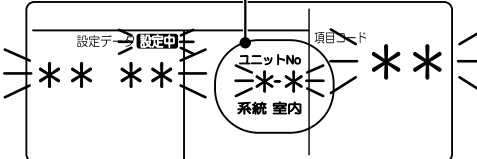
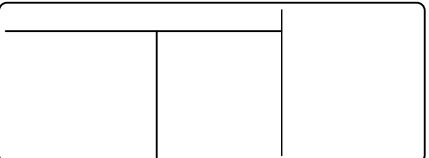
## 応用制御設定の切り換え

### 設定切り換えの基本操作手順

運転停止中に設定の変更を行います。

（セットは必ず運転を停止させてください）



手順	操作内容
①	<p>「セット」＋「取消」＋「点検」ボタンを4秒以上同時に押すと、しばらくして表示部が図のように点滅します。</p> <p>表示された項目コードが[10]になって入ることを確認してください。</p> <p>●項目コードが[10]以外の場合は、「点検」ボタンを押して表示を消し、最初からやり直してください。（「点検」ボタンを押した後、約1分程はリモコン操作を受け付けません）</p> <p>（グループ制御の場合、最初に表示される室内ユニットNoが親機となります。）</p>  <p>（※室内ユニットの機種で表示が変わります）</p>
②	<p>「ユニット選択」ボタンを押すごとに、グループ制御内の室内ユニットNoを順次表示しますので、設定を変える室内ユニットを選択します。</p> <p>このとき、選択された室内ユニットのファンおよびフラップが作動しますので設定変更する室内ユニットの位置を確認できます。</p>
③	<p>設定温度の「△」／「▽」ボタンで、項目コード[**]を指定します。</p> 
④	<p>タイマー時間の「△」／「▽」ボタンで、設定データ[****]を選択します。</p>
⑤	<p>「セット」ボタンを押します。このとき、表示が点滅から点灯になれば設定終了となります。</p> <p>●選択した室内ユニット以外のセットを変更したいときは、手順②から行います。</p> <p>●選択した室内ユニットの別の設定を変更したいときは、手順③から行います。</p> <p>「取消」ボタンを押すと、今まで設定した内容をクリアできます。この場合は、手順②からやり直しとなります。</p>
⑥	<p>設定が終了したら「点検」ボタンを押します。（設定が確定する）</p> <p>「点検」ボタンを押すと、表示が消え通常停止状態となります。</p> <p>（点検ボタンを押したあとは、約1分程はリモコン操作を受け付けません）</p> 

# 5 応用制御 (つづき)

## フィルタサイン点灯時間の変更

据え付け条件に応じてフィルタサイン（フィルタ清掃のおしらせ）が点灯する時間を変更することができます。

基本操作手順（①→②→③→④→⑤→⑥）に従って操作します。

- 手順③の項目コードは「01」を指定します。
- 手順④の設定データは、下表から設定するフィルタサイン点灯時間の設定データを選択します。

設定データ	0000	0001	0002	0003	0004
フィルタサイン 点灯時間	なし	150H	2500H (出荷時)	5000H	10000H

## 暖房効果をよりよくするために

室内ユニットの据付場所、部屋の構造などでどうしても暖まりにくい場合には、暖房の検出温度を上げることができます。また、サーキュレータなどを併用し、天井付近の暖かい空気を循環させてください。

基本操作手順（①→②→③→④→⑤→⑥）に従って操作します。

- 手順③の項目コードは「06」を指定します。
- 手順④の設定データは、下表から設定する検出温度シフト値の設定データを選択します。

設定データ	0000	0001	0002	0003	0004	0005	0006
検出温度 シフト値	シフト なし	+1℃	+2℃ (出荷時)	+3℃	+4℃	+5℃	+6℃

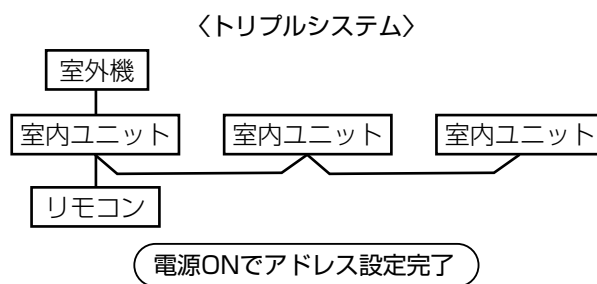
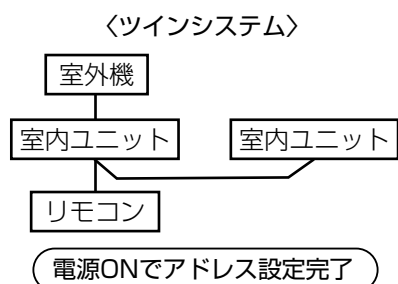
## グループ制御

### 同時ツイン・トリプルの場合

室外機 1 台と組み合わせ、ツインでは 2 台、トリプルでは 3 台の室内ユニットを同時に ON/OFF 運転できます。

- 配線手順および配線は、本紙 P14 の『電気配線』に従って行ってください。
- 電源投入時に自動アドレス設定に入り、約 3 分後にアドレス設定中を示す“設定中”の表示が、表示部に点滅します。自動アドレス設定中は、リモコン操作を受け付けません。

自動アドレス終了までの所要時間は約 5 分です。



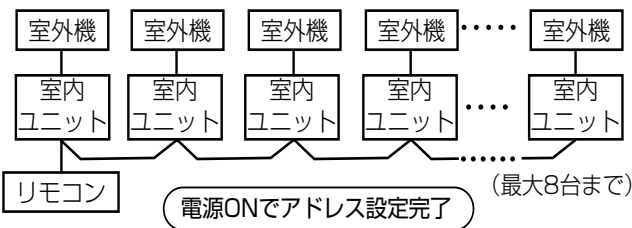


# 複数台システムのグループ制御の場合

- リモコン1個で最大8台までグループ制御できます。
- 個々の系統（同一冷媒系統）システムの配線手順及び配線は、本紙P14の『電気配線』に従って行ってください。
  - 系統間の配線は次の手順で行います。  
リモコンを接続した室内ユニットのリモコン端子板（A・B）から他の室内ユニットのリモコン端子板（A・B）に、リモコン渡り配線をそれぞれに渡らせて接続します。
  - 電源投入時に自動アドレス設定に入り、約3分後にアドレス設定中を示す“設定中”の表示が、表示部に点滅します。自動アドレス設定中は、リモコン操作を受け付けません。

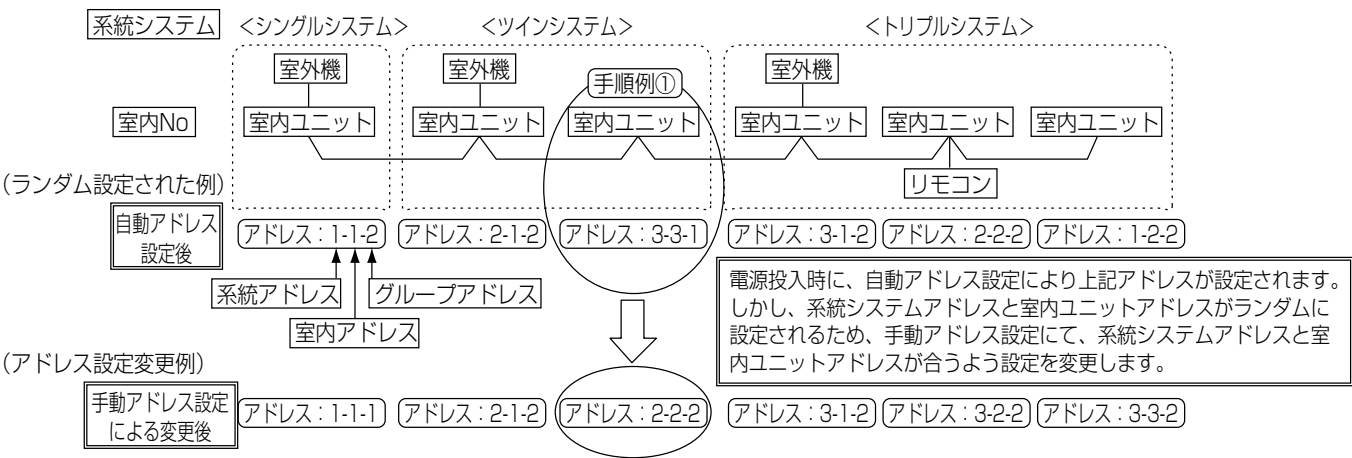
自動アドレス終了までの所要時間は約5分です。

## ＜シングルシステムのグループ制御＞



**注意**  
グループ制御のシステム構成によっては、自動アドレス設定後に手動によるアドレス変更を行う必要があります。  
●アドレス変更が必要なシステム構成は、複数台のツイン・トリプルシステムが1つのリモコンでグループ制御されている複合システムの場合です。

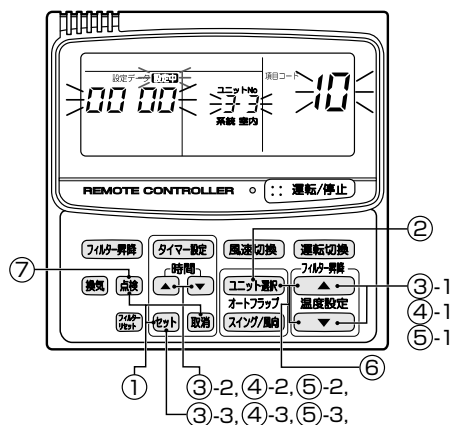
# （例）複合システムでのグループ制御



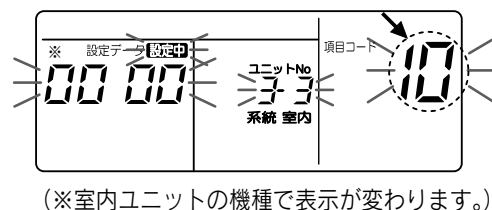
# 5 応用制御 (つづき)

## 〈手順例①〉 手動アドレス設定の操作手順

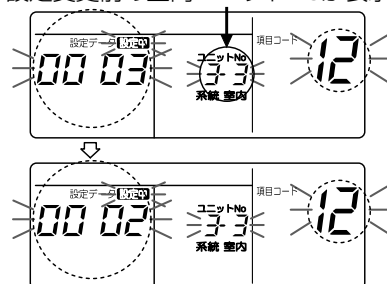
運転停止中に設定の変更を行います。  
(セットは必ず運転を停止させてください)



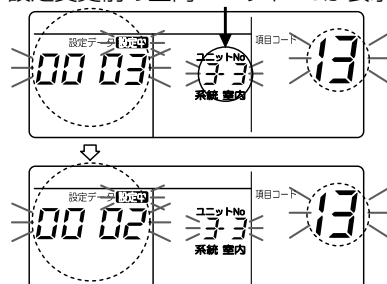
手順	操作内容
①	<p>「セット」＋「取消」＋「点検」ボタンを4秒以上同時に押すと、しばらくして表示部が図のように点滅します。表示された項目コードが〔10〕になって入ることを確認してください。</p> <p>●項目コードが〔10〕以外の場合は、「点検」ボタンを押して表示を消し、最初からやり直してください。(「点検」ボタンを押した後、約1分程はリモコン操作を受け付けません)</p> <p>(グループ制御の場合、最初に表示される室内ユニットNoが親機となります。)</p>
②	<p>「ユニット選択」ボタンを押すごとに、グループ制御内の室内ユニットNoを順次表示しますので、設定を変える室内ユニットを選択します。</p> <p>このとき、選択された室内ユニットのファンおよびフラップが作動しますので、設定変更する室内ユニットの位置を確認できます。</p>
③-1	<p>設定温度の「△」／「▽」ボタンで、項目コード〔12〕を指定します。(項目コード〔12〕：系統アドレス)</p>
③-2	<p>タイマー時間の「△」／「▽」ボタンで、系統アドレス〔3〕→〔2〕にします。</p>
③-3	<p>「セット」ボタンを押します。</p> <p>このとき、表示が点滅から点灯になれば設定終了となります。</p>
④-1	<p>設定温度の「△」／「▽」ボタンで、項目コード〔13〕を指定します。(項目コード〔13〕：室内アドレス)</p>
④-2	<p>タイマー時間の「△」／「▽」ボタンで、室内アドレス〔3〕→〔2〕にします。</p>
④-3	<p>「セット」ボタンを押します。</p> <p>このとき、表示が点滅から点灯になれば設定終了となります。</p>



設定変更前の室内ユニットNoが表示



設定変更前の室内ユニットNoが表示



＜手順例①＞ 手動アドレス設定の操作手順（つづき）

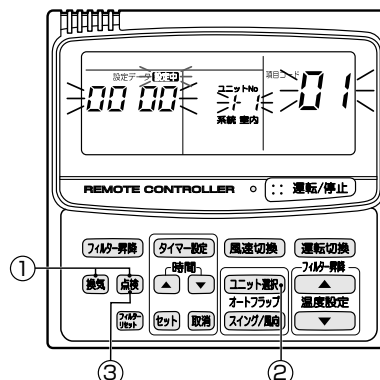
手順	操 作 内 容
⑤-1	設定温度の「△」／「▽」ボタンで、項目コード〔14〕を指定します。（項目コード〔14〕：グループアドレス）
⑤-2	タイマー時間の「△」／「▽」ボタンで、設定データ〔0001〕→〔0002〕にします。 （設定データ〔親機：0001〕〔子機：0002〕）
⑤-3	「セット」ボタンを押します。 このとき、表示が点滅から点灯になれば設定終了となります。
⑥	<p>その他に変更する室内ユニットがある場合は、続けて手順②～⑤を繰り返し設定変更を行います。</p> <p>上記設定が終了したら、「室内ユニット選択」ボタンを押して設定変更前の室内ユニットNoを選択し、設定温度の「△」／「▽」ボタンで、項目コード〔12〕、〔13〕、〔14〕と順に指定し、変更内容を確認してください。</p> <div>アドレス変更確認 変更前：〔3-3-1〕→変更後：〔2-2-2〕</div> <p>「取消」ボタンを押すと、設定中の内容を元に戻すことができます。</p>
⑦	<p>変更内容を確認したら「点検」ボタンを押します（設定が確定する）。「点検」ボタンを押すと、表示が消え通常停止状態となります。（点検ボタンを押した後、約1分程はリモコン操作を受け付けません）</p> <p>●「点検」ボタンを押した後、1分以上経過してもリモコン操作を受け付けない場合は、アドレス設定を誤っていることが考えられます。この場合は、再度自動アドレス設定を行っているので、手順①より設定変更をやり直してください。</p>

# 5 応用制御 (つづき)

## 室内ユニットNoは分かるが、その室内ユニット本体の位置を知りたいとき

運転停止中に確認を行います。

(セッとは必ず運転を停止させてください)



手順	操 作 内 容
①	<p>「点検」 + 「換気」 ボタンを4秒以上同時に押すと、しばらくして表示部が図のように点滅し表示されます。このとき、室内ユニットのファンおよびフラップが作動し、位置を確認することができます。</p> <p>●グループ制御の場合は、室内ユニットNoの表示が〔ALL〕と表示され、グループ制御内の全室内ユニットのファンおよびフラップが作動します。</p> <p>表示された項目コードが〔01〕 になって入ることを確認してください。</p> <p>●項目コードが〔01〕 以外の場合は、「点検」 ボタンを押して表示を消し、最初からやり直してください。(「点検」 ボタンを押した後、約1分程はリモコン操作を受け付けません)</p> <div data-bbox="970 1099 1461 1263"> </div> <p>(※室内ユニットの機種で表示が変わります。)</p>
②	<p>グループ制御の場合、「ユニット選択」 ボタンを押すごとに、グループ制御内の室内ユニットNoを順次表示します。このとき、選択された室内ユニットのファンおよびフラップのみが作動し、位置を確認することができます。(グループ制御の場合、最初に表示される室内ユニットNoが親機となります)</p>
③	<p>確認できたら「点検」 ボタンを押して通常モードに戻ります。</p> <p>「点検」 ボタンを押すと、表示が消え通常停止状態となります。</p> <p>(点検ボタンを押した後、約1分程はリモコン操作を受け付けません)</p> <div data-bbox="1002 1503 1430 1664"> </div>

# 6 試運転

## 試運転の前に

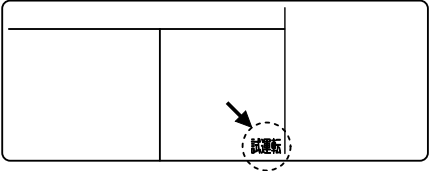
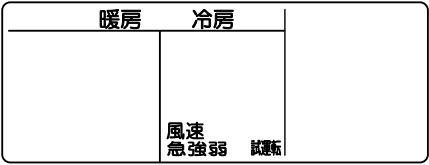
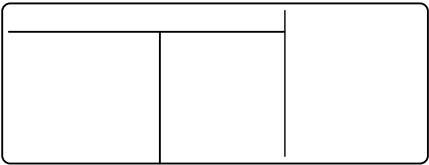
- 電源を入れる前に、次のことを行ってください。
  - (1) 電源端子板とアース間を500Vメガーで計って1 MΩ以上あることを確認します。  
1 MΩ未満のときは運転しないでください。
  - (2) 室外機のパルプが全開しているか確認してください。
- 起動時のコンプレッサ保護のために、電源を入れ12時間以上通電してください。
- 電磁接触器を押して強制的に試運転することは絶対にやめてください。  
(保護装置が作動しないため大変危険です)

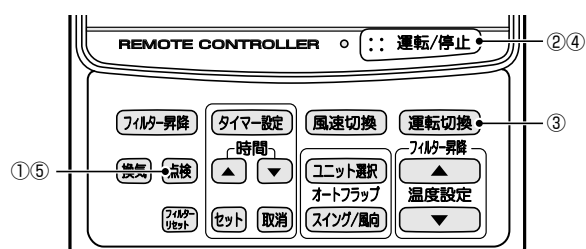
## 試運転の方法

リモコンにて、通常操作で運転確認を行ってください。運転の手順は、付属の取扱説明書に従ってください。  
室温がサーモOFFするような条件では、以下の手順にて強制試運転ができます。  
強制試運転は、連続運転を防止するため、運転を60分経過すると試運転を解除し、通常運転に戻ります。

注) 強制試運転は、機器に無理が掛かりますので、試運転以外では使用しないでください。

### ワイヤードリモコンの場合

手順	操 作 内 容
①	<p>「点検」ボタンを4秒以上押すと、表示部に〔試運転〕と表示され、試運転モードとなります。</p> 
②	「運転／停止」ボタンを押します。
③	<p>「運転切換」ボタンで、運転モードを〔冷房〕か〔暖房〕にしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●〔冷房〕／〔暖房〕モード以外で使用しないでください。</li> <li>●試運転中は、温度調節はできません。</li> <li>●異常検出は、通常通り行います。</li> </ul> 
④	<p>試運転を終了したら、「運転／停止」ボタンを押して運転を停止してください。 (表示部の表示が手順①と同じになります。)</p>
⑤	<p>「点検」ボタンを押し、試運転モードを解除してください。 (表示部の〔試運転〕表示が消え通常停止状態となります。)</p> 



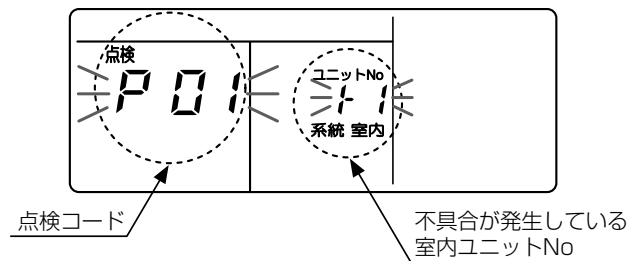
# 7 故障診断

## 確認と点検

エアコンに不具合が発生した場合、リモコン表示部に点検コードと室内ユニットNoが表示されます。

点検コードは、運転中にのみ表示されます。

表示が消えてしまった場合は、下記の『故障履歴の確認』に従って操作し確認してください。

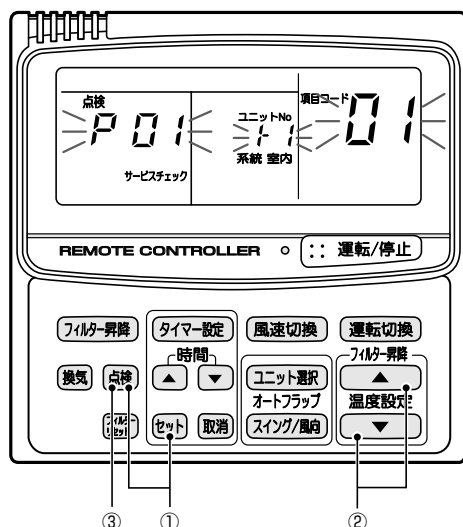


## 故障履歴の確認

エアコンに不具合が発生した場合、以下の手順で故障履歴を確認できます。(故障履歴は4つまでメモリされます。)

運転および停止状態のどちらからでも確認できます。

手順	操 作 内 容
①	<p>「セット」 + 「点検」 ボタンを4秒以上同時に押すと、しばらくして表示部が図のように表示されます。表示部に「サービスチェック」が表示されると、故障履歴モードに入ったことを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 項目コードに、[01：故障履歴の順番]が表示されます。</li> <li>・ 点検に「点検コード」が表示されます。</li> <li>・ 室内ユニットNoに「不具合が発生した室内ユニットアドレス」が表示されます。</li> </ul>
②	<p>設定温度の「△/▽」ボタンを押すごとに、メモリされている故障履歴が順番に表示されます。項目コードは、項目コード [01] (最新) …→項目コード [04] (一番古い) を示します。</p> <p><b>お願い</b></p> <p>[取消] ボタンを押すと、室内ユニットの故障履歴が全て消去されますので、押さないでください。</p>
③	確認できたら「点検」 ボタンを押して通常表示に戻ります。



## ●点検コードと点検箇所

ワイヤード リモコン表示部	ワイヤレスリモコン 受光部表示ランプ	代表故障箇所	検出	点検箇所と故障内容	エアコン の状態
表示	運転 タイマー 準運転 点滅				
E01	○ ● ●	リモコン親なし リモコン通信異常	リモコン	親リモコンが設定されていない場合 (含む2リモコン) 室内ユニットから信号が受信できない場合	—
E02	○ ● ●	リモコン送信不良	リモコン	室内ユニットへの信号送信ができない場合	—
E03	○ ● ●	室内・リモコン間 定期通信エラー	室内	リモコン、ネットワークアダプタ、室内PC板…リモコン及びネットワークアダプタから通信が無い場合	自動復帰
E04	● ● ○	室内外シリアル異常 IPDU-CDB間通信異常	室内	渡り線、室内PC板、室外PC板…室内外間シリアル通信に異常のある場合	自動復帰
E08	○ ● ●	室内アドレス重複 ☆	室内	室内アドレス誤設定…自分と同じアドレスを検出した場合	自動復帰
E09	○ ● ●	リモコン親重複	リモコン	リモコンアドレス誤設定…2リモコン制御で2台とも親に設定した場合 (* 室内親は警報停止、子は運転継続)	*
E10	○ ● ●	CPU間通信異常	室内	室内PC板…メイン-モーターマイコン間のMCU間通信が異常の場合	自動復帰
E18	○ ● ●	室内ユニット親子間 定期通信エラー	室内	室内PC板…室内親子間の定期通信ができない場合、ツイン親 (主機) 子 (従機) 間の通信ができない時	自動復帰
F01	○ ○ ● 交互	室内ユニット 熱交センサ (TCJ) 異常	室内	熱交センサ (TCJ)、室内PC板…熱交センサ (TCJ) のオープン・ショートを検出した場合	自動復帰
F02	○ ○ ● 交互	室内ユニット 熱交センサ (TC) 異常	室内	熱交センサ (TC)、室内PC板…熱交センサ (TC) のオープン・ショートを検出した場合	自動復帰
F04	○ ○ ○ 交互	室外機 吐出温度センサ (TD) 異常	室外	室外温度センサ (TD)、室外PC板…吐出温度センサのオープン・ショートを検出した時	全停止
F06	○ ○ ○ 交互	室外機 温度センサ (TE, TS) 異常	室外	室外温度センサ (TE, TS)、室外PC板…熱交温度センサのオープン・ショートを検出した時	全停止
F08	○ ○ ○ 交互	室外機 外気温センサ異常	室外	室外温度センサ (TO)、室外PC板…室外気温センサのオープン・ショートを検出した時	運転継続
F10	○ ○ ● 交互	室内ユニット 室温センサ (TA) 異常	室内	室温センサ (TA)、室内PC板…室温センサ (TA) のオープン・ショートを検出した場合	自動復帰
F29	○ ○ ● 同時	室内ユニット 他の室内基板異常	室内	室内PC板…E2PR0M異常の場合	自動復帰
H01	● ○ ●	室外機 コンプレッサダウン	室外	電流検出回路、電源電圧…電流リリース制御にてmin-Hz到達時、直流励磁以降の短絡電流 (Idc) 検出など	全停止
H02	● ○ ●	室外機 コンプレッサロック	室外	コンプレッサ…コンプレッサのロックを検出した場合	全停止
H03	● ○ ●	室外機 電流検出回路異常	室外	電流検出回路、室外PC板…AC-CTにて異常電流を検出した時、欠相を検出した時	全停止
H06	● ○ ●	室外機 低圧系異常	室外	電流、高圧スイッチ回路、室外PC板…Ps圧力センサ異常、低圧保護動作	全停止
L03	○ ● ○ 同時	室内ユニット親重複 ☆	室内	室内アドレス誤設定…グループ内に親機が複数存在する場合	全停止
L07	○ ● ○ 同時	個別室内ユニットにグループ 線あり ☆	室内	室内アドレス誤設定…個別室内ユニットにグループ接続室内ユニットが1台でもいる場合	全停止
L08	○ ● ○ 同時	室内グループアドレス未設定 ☆	室内	室内アドレス誤設定…室内アドレスグループ未設定の時	全停止
L09	○ ● ○ 同時	室内能力未設定	室内	室内ユニットの能力が未設定	全停止
L20	○ ○ ○ 同時	LAN系通信異常	ネットワークアダプタ 集中管理	アドレス設定、集中管理リモコン、ネットワークアダプタ…集中管理系通信のアドレス重複	自動復帰
L29	○ ○ ○ 同時	室外機 他の室外機異常	室外	その他室外機異常 1) IPDU-CDB間のMCU間通信が異常の場合 2) IGBTのヒートシンク部温度センサにて異常温度を検出した場合	全停止
L30	○ ○ ○ 同時	室内ユニットへの外部異常入力 あり (インターロック)	室内	外部機器チェック、室外PC板…CN80外部異常入力にて異常停止	全停止
L31	○ ○ ○ 同時	相順異常 その他	室外	電源相順、室外PC板…三相電源の相順が異常の時	運転継続 (サーモOFF)
P01	● ○ ○ 交互	室内ユニット 室内ファン異常	室内	室内ファンモータ、室内PC板…室内ACファンの異常を検出した場合 (ファンモーターサーマルリレー動作)	全停止
P03	○ ● ○ 交互	室外機 吐出温度異常	室外	吐出温度リリース制御にて異常を検出した場合	全停止
P04	○ ● ○ 交互	室外機 高圧系異常	室外	高圧スイッチ、IOLが動作した場合・TEによる高圧リリース制御にて異常を検出した時	全停止
P10	● ○ ○ 交互	室内ユニット 溢水検出	室内	ドレンパイプ、排水詰り、フロートスイッチ回路、室内PC…排水系異常、フロートスイッチが動作した場合	全停止
P19	○ ● ○ 交互	四方弁異常	室内	四方弁チェック、室内温度センサ (TC, TCJ) チェック…暖房時室内熱交センサの温度低下により異常を検出した場合	自動復帰
P22	○ ● ○ 交互	室外機 室外ファン異常	室外	室外ファンモータ、室外PC板…室外ファン駆動回路にて異常 (過電流・ロック等) を検出した時	全停止
P26	○ ● ○ 交互	室外機 インバータIdc動作	室外	IGBT、室外PC板、インバータ配線、コンプレッサ…コンプレッサ駆動回路素子 (G-Tr IGBT) の短絡保護動作が働いた場合	全停止
P29	○ ● ○ 交互	室外機 位置検出異常	室外	室外PC板、高圧スイッチ…コンプレッサモータの位置検出異常を検出した時	全停止
P31	○ ● ○ 交互	他の室内ユニット異常	室内	グループ内部の他の室内が警報中の場合 E03/L07/L03/L08警報	自動復帰

○：点灯、●：点滅、●：消灯

☆：この時は自動的に自動アドレス設定へ移行する。

交互：点滅LEDが2個あるときの点滅状態が交互

同時：点滅LEDが2個あるときの点滅状態が同時

# 8 お客様への引き渡し

お客様に引き渡す前に、今回の据え付けた室内ユニットのアドレス及び設定を確認し、チェックシート（下表）に記入してください。チェックシートは4台分の記入ができますので、据え付けたシステムがグループ制御システムの場合は、他の室内ユニットに付属の据付説明書に分けて系統システムごと記入して、ご使用ください。

## お願い

据え付け後のメンテナンスとして必要ですので、必ず記入をしてお客様に本据付説明書をお渡しください。

## 室内ユニット設定チェックシート

室内ユニット			室内ユニット			室内ユニット			室内ユニット		
形名			形名			形名			形名		
室内ユニットのアドレスを確認してください。（確認方法は、本紙の応用制御を参照してください。）*シングルシステムの場合は、アドレスは記入不要です。 （項目コード：系統 [12]、室内 [13]、グループ [14]）											
系統	室内	グループ	系統	室内	グループ	系統	室内	グループ	系統	室内	グループ
各種設定			各種設定			各種設定			各種設定		
室内ユニットの高天井設定を変更しましたか。未変更の場合は「変更なし」に、変更した場合は変更した「項目」に「レ」印を付けてください。 （確認方法は、本紙の応用制御を参照してください。）											
高天井設定（項目コード [5d]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 標準 「0000」 <input type="checkbox"/> 高天井① 「0001」 <input type="checkbox"/> 高天井③ 「0003」 <input type="checkbox"/> 高天井⑥ 「0006」			高天井設定（項目コード [5d]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 標準 「0000」 <input type="checkbox"/> 高天井① 「0001」 <input type="checkbox"/> 高天井③ 「0003」 <input type="checkbox"/> 高天井⑥ 「0006」			高天井設定（項目コード [5d]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 標準 「0000」 <input type="checkbox"/> 高天井① 「0001」 <input type="checkbox"/> 高天井③ 「0003」 <input type="checkbox"/> 高天井⑥ 「0006」			高天井設定（項目コード [5d]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 標準 「0000」 <input type="checkbox"/> 高天井① 「0001」 <input type="checkbox"/> 高天井③ 「0003」 <input type="checkbox"/> 高天井⑥ 「0006」		
フィルタサイン点灯時間を変更しましたか。未実施の場合は「変更なし」に、変更した場合は変更した「項目」に「レ」印を付けてください。 （確認方法は、本紙の応用制御を参照してください。）											
フィルタサイン点灯時間 （項目コード [01]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし 「0000」 <input type="checkbox"/> 150H 「0001」 <input type="checkbox"/> 2500H 「0002」 <input type="checkbox"/> 5000H 「0003」 <input type="checkbox"/> 10000H 「0004」			フィルタサイン点灯時間 （項目コード [01]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし 「0000」 <input type="checkbox"/> 150H 「0001」 <input type="checkbox"/> 2500H 「0002」 <input type="checkbox"/> 5000H 「0003」 <input type="checkbox"/> 10000H 「0004」			フィルタサイン点灯時間 （項目コード [01]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし 「0000」 <input type="checkbox"/> 150H 「0001」 <input type="checkbox"/> 2500H 「0002」 <input type="checkbox"/> 5000H 「0003」 <input type="checkbox"/> 10000H 「0004」			フィルタサイン点灯時間 （項目コード [01]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし 「0000」 <input type="checkbox"/> 150H 「0001」 <input type="checkbox"/> 2500H 「0002」 <input type="checkbox"/> 5000H 「0003」 <input type="checkbox"/> 10000H 「0004」		
検出温度シフト値を変更しましたか。未変更の場合は「変更なし」に、変更した場合は変更した「項目」に「レ」印を付けてください。 （確認方法は、本紙の応用制御を参照してください。）											
検出温度シフト値設定 （項目コード [06]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> シフトなし 「0000」 <input type="checkbox"/> +1℃ 「0001」 <input type="checkbox"/> +2℃ 「0002」 <input type="checkbox"/> +3℃ 「0003」 <input type="checkbox"/> +4℃ 「0004」 <input type="checkbox"/> +5℃ 「0005」 <input type="checkbox"/> +6℃ 「0006」			検出温度シフト値設定 （項目コード [06]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> シフトなし 「0000」 <input type="checkbox"/> +1℃ 「0001」 <input type="checkbox"/> +2℃ 「0002」 <input type="checkbox"/> +3℃ 「0003」 <input type="checkbox"/> +4℃ 「0004」 <input type="checkbox"/> +5℃ 「0005」 <input type="checkbox"/> +6℃ 「0006」			検出温度シフト値設定 （項目コード [06]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> シフトなし 「0000」 <input type="checkbox"/> +1℃ 「0001」 <input type="checkbox"/> +2℃ 「0002」 <input type="checkbox"/> +3℃ 「0003」 <input type="checkbox"/> +4℃ 「0004」 <input type="checkbox"/> +5℃ 「0005」 <input type="checkbox"/> +6℃ 「0006」			検出温度シフト値設定 （項目コード [06]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> シフトなし 「0000」 <input type="checkbox"/> +1℃ 「0001」 <input type="checkbox"/> +2℃ 「0002」 <input type="checkbox"/> +3℃ 「0003」 <input type="checkbox"/> +4℃ 「0004」 <input type="checkbox"/> +5℃ 「0005」 <input type="checkbox"/> +6℃ 「0006」		
別売品組込み			別売品組込み			別売品組込み			別売品組込み		
下記別売品を組み込みましたか。組み込んだ場合は各「項目」に「レ」印を付けてください。 （組み込み時に設定切換が必要なものがあります。設定切換方法は、各別売品に付属の取付説明書を参照してください。）											
パネル <input type="checkbox"/> 標準パネル <input type="checkbox"/> オートグリルパネル （項目コード [30]） <input type="checkbox"/> オイルガードパネル <input type="checkbox"/> オイルガードオートグリルパネル （項目コード [30]）			パネル <input type="checkbox"/> 標準パネル <input type="checkbox"/> オートグリルパネル （項目コード [30]） <input type="checkbox"/> オイルガードパネル <input type="checkbox"/> オイルガードオートグリルパネル （項目コード [30]）			パネル <input type="checkbox"/> 標準パネル <input type="checkbox"/> オートグリルパネル （項目コード [30]） <input type="checkbox"/> オイルガードパネル <input type="checkbox"/> オイルガードオートグリルパネル （項目コード [30]）			パネル <input type="checkbox"/> 標準パネル <input type="checkbox"/> オートグリルパネル （項目コード [30]） <input type="checkbox"/> オイルガードパネル <input type="checkbox"/> オイルガードオートグリルパネル （項目コード [30]）		
フィルタ <input type="checkbox"/> 高性能フィルタ（65%） <input type="checkbox"/> 高性能フィルタ（90%） <input type="checkbox"/> 抗菌高性能フィルタ（65%） <input type="checkbox"/> 抗菌高性能フィルタ（90%） <input type="checkbox"/> オイルガードフィルタ <input type="checkbox"/> デオドラントフィルタ <input type="checkbox"/> 超ロングライフフィルタ <input type="checkbox"/> アンモニア脱臭フィルタ <input type="checkbox"/> 光再生脱臭フィルタ			フィルタ <input type="checkbox"/> 高性能フィルタ（65%） <input type="checkbox"/> 高性能フィルタ（90%） <input type="checkbox"/> 抗菌高性能フィルタ（65%） <input type="checkbox"/> 抗菌高性能フィルタ（90%） <input type="checkbox"/> オイルガードフィルタ <input type="checkbox"/> デオドラントフィルタ <input type="checkbox"/> 超ロングライフフィルタ <input type="checkbox"/> アンモニア脱臭フィルタ <input type="checkbox"/> 光再生脱臭フィルタ			フィルタ <input type="checkbox"/> 高性能フィルタ（65%） <input type="checkbox"/> 高性能フィルタ（90%） <input type="checkbox"/> 抗菌高性能フィルタ（65%） <input type="checkbox"/> 抗菌高性能フィルタ（90%） <input type="checkbox"/> オイルガードフィルタ <input type="checkbox"/> デオドラントフィルタ <input type="checkbox"/> 超ロングライフフィルタ <input type="checkbox"/> アンモニア脱臭フィルタ <input type="checkbox"/> 光再生脱臭フィルタ			フィルタ <input type="checkbox"/> 高性能フィルタ（65%） <input type="checkbox"/> 高性能フィルタ（90%） <input type="checkbox"/> 抗菌高性能フィルタ（65%） <input type="checkbox"/> 抗菌高性能フィルタ（90%） <input type="checkbox"/> オイルガードフィルタ <input type="checkbox"/> デオドラントフィルタ <input type="checkbox"/> 超ロングライフフィルタ <input type="checkbox"/> アンモニア脱臭フィルタ <input type="checkbox"/> 光再生脱臭フィルタ		
<input type="checkbox"/> その他（ ） <input type="checkbox"/> その他（ ）			<input type="checkbox"/> その他（ ） <input type="checkbox"/> その他（ ）			<input type="checkbox"/> その他（ ） <input type="checkbox"/> その他（ ）			<input type="checkbox"/> その他（ ） <input type="checkbox"/> その他（ ）		

東芝キヤリア株式会社

〒416-8521 静岡県富士市蓼原336番地